「日々の理科」（第 2659 号） 2021,10,24

「クリタケ（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

非常に久しぶりに北軽井沢を訪れた。東京からの気温観測では、ここ数日、早朝には氷点下にまで気温が下がっていた。

10 月 19 日の深夜には、浅間山の初冠雪を観測した。前橋気象台の発表は「10 月 20 日」となっていたが、実際には 10 月 19 日にすでに「東京から」初冠雪を観測していたのだ。

その翌早朝には、雪をかぶった「赤浅間」が美しかった。そんなこともあって、紅葉がずいぶん進んでいるだろうと期待していたのだが、そうでもなかった。地元の人の話では、「今年は紅葉が見られないまま、葉が散ってしまうかも知れない」ということだった。以前にもそういうことがあった。逆に、紅葉の季節の真っ最中に雪が積もったこともある。

山荘の裏庭は、まだ初秋の風景だった。しかしこの日の最高気温は 6℃。一日中寒かった。スタンドの灯油売り場には行列ができていたが、1 L が 100 円以上もして、私の前に並んでいた地元のご婦人は、財布の中を確かめながら「これじゃ 18L は買えないわ･･･」と 1000 円分だけ買っていった。私は速攻で、「灯油は寒冷地の人には生活必需品です。このままでは町内で凍死者が出ますよ」と長町宛にメールを送っておいた。

山荘の裏庭には、クリの木の切り株がある。イノシシの大群がクリの実を食べに来て、地面を荒らすので、数年前に切ったのだ。しかし根の一部は生きていて、たくさんの不定芽（いわゆるひこばえ）が発生していた。その中の１本を残したところ、もう 3 メートルぐらいに育っていた。切り株には黄色いキノコが発生していた。どうやら「クリタケ」のようだ。